

## 随想

## 「江ノ電」との触れ合い 前編

古橋 昭子

(青山学院大学名誉教授・  
理学博士・湘南日独協会会員)

昭和 34 年、柳小路駅に到着した 300 形

初めて江ノ電に乗ったのは、先生とともに、電車を待つ間、昭和 11 年(1936)初夏の頃、皆それぞれに親(親は見送り、藤沢第一尋常小学校(現・藤沢小学校)の遠足で江の島に行った時である。当時の藤沢駅は国鉄(現・JR)のプラットフォーム(当時はまだトボムから登り階段(東京側)を上から南口に向かって下ると改札口があり、それを通れば目の前は江ノ電の駅舎であった。今の様高い所から江ノ電が出る様になったのは昭和 49 年(1974)に藤沢駅南口に江ノ電百貨店現・小田急百貨店藤沢店が出来たからのことである。お友達、

初めて江ノ電に乗ったのは、先生とともに、電車を待つ間、昭和 11 年(1936)初夏の頃、皆それぞれに親(親は見送り、藤沢第一尋常小学校(現・藤沢小学校)の遠足で江の島に行った時である。当時の藤沢駅は国鉄(現・JR)のプラットフォーム(当時はまだトボムから登り階段(東京側)を上から南口に向かって下ると改札口があり、それを通れば目の前は江ノ電の駅舎であった。今の様高い所から江ノ電が出る様になったのは昭和 49 年(1974)に藤沢駅南口に江ノ電百貨店現・小田急百貨店藤沢店が出来たからのことである。お友達、

初めて江ノ電に乗ったのは、先生とともに、電車を待つ間、昭和 11 年(1936)初夏の頃、皆それぞれに親(親は見送り、藤沢第一尋常小学校(現・藤沢小学校)の遠足で江の島に行った時である。当時の藤沢駅は国鉄(現・JR)のプラットフォーム(当時はまだトボムから登り階段(東京側)を上から南口に向かって下ると改札口があり、それを通れば目の前は江ノ電の駅舎であった。今の様高い所から江ノ電が出る様になったのは昭和 49 年(1974)に藤沢駅南口に江ノ電百貨店現・小田急百貨店藤沢店が出来たからのことである。お友達、

あろう。江の島まで行く、坂を昇ったことまでは覚えていたが、当時の学園には制服が無かったため、中高の校舎が A 地区に完成し、江ノ電通勤は藤沢・鶴沼間へと変わった。鶴沼駅近くには川が流れており、うなぎ採りの籠を仕掛けていた人が籠を引き上げているのを見たことがあった。今でも「うなぎ」は採れるのだろうか。

江ノ電「鶴沼駅」の次は「西方駅」といっていたが、そこ個人教授の生徒さんが何人か居たのでそこまではよく出かけたが、それより先に行くことは少なかった。

ある日、由比ヶ浜に在住する生徒から、由比ヶ浜はとても美しいので泳ぎにいらっ

あまの宜しくない。(続)